



当山の報恩講法要で郡浦智明先生のお取次ぎ (先月16日撮影)



金光寺寺報
第163号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

称えるまが つねに御本願の みこころを 聞くことになる

一月の法語は香樹院徳龍師(1772~1858)の語録からいただきました。

滋賀県木之本(現・長浜市)のあたりに住んでいた禅僧の弘海は、長年禅の修行に打ち込んでいましたが、悟りの境地には至れず悩んでいたとのこと。そんなとき、たまたま長浜の御坊で香樹院徳龍師の法話を聞き、浄土真宗の教えに帰依してお念仏のひととなったそうです。しかし、どうしても阿弥陀如来のおこころに十分触れることができずに悩んでいた。そこで徳龍師に尋ねます。

「わが称える念仏が聞法だというのは、どういことでしょうか。わが称え、わが声を聞くこととございますか」

香樹院徳龍師は、大喝して言われます。「なにをいうか。わが称える念仏というものがどこ

にあるか。称えさせてくださるお方がなくて、この罪悪のわが身がどうして仏のみ名を称えることができようか。称えさせるお方があって、称えさせていただいているお念仏であると聞けば、そもそもこの南無阿弥陀仏を如来さまは、何のために御成就あそばされたのか、何のために称えさせておられるのかと、如来さまのおこころを思えば、これがすなわち称えるまが、つねに御本願のみこころを聞くことになるではないか」

今ここに「私」がひと声お念仏を称えるのも、阿弥陀如来のご本願があって称えさせてくださっているからこそ念仏させていただいているのだ、といただかれて、お念仏に聴聞されている弘海のお姿にまみえる思いがいたします。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 1月 20日(火) 28日(水)
- 3月 11日(水) 21日(土)



12月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2014年12月1日	寂満89歳	三ヶ所 藤本ハツ工様
2014年12月6日	寂満73歳	高千穂 佐藤設郎様
2014年12月13日	寂満82歳	波 帰 松本福義様
2014年12月22日	寂満71歳	荒 谷 村山善幸様
2014年12月25日	寂満92歳	丁 子 興 相 イト工様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
1月8日現在 アクセス数 75,213人

仏教用語豆辞典

諸行無常

「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり」『平家物語』の語り出しの有名な一句です。インドの祇園精舎には無常堂があり、その四隅の軒にさげら

れている鐘は、修行僧が命を終わろうとするとき「諸行無常」の四句の偈を響かせ、僧を極楽浄土へ導いたといわれています。このように、「諸行無常は人生のはかなさ、生命のもろさ、そしてときには死を意味する言葉として、日本人になじみの深い語句となっています。しかし、本来、諸行無常とは、この世のものはたえまなく変化し続けているという事実を、ありのままに述べたもので、仏教の真理の一つなのです。人が死ぬのも無常ですが、生

まれるのも無常、成長するの無常だということです。没落するの無常ですが、不幸な人が幸福に恵まれるのも無常なのです。万物は流転しています。だからこそ、努力するのであり、一刻一刻が貴重なのであり、限りある生命を大切にしてください。けっして、無情ではありません。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇ページから)

住職ひとりごと

今月号から二十四節季と七十二候紹介のコーナーを設けました。一つの節気の候が初候・次候・末候と三つありますので、二十四×三=七十二で、二十四節気には七十二の候があるということになります。私も初めて知ったことでしたが、「小寒」の説明をインターネットで調べている時に分かりました。紙面の都合もあるのですが、できるだけ毎月紹介していきたいと思っています。今月は「小寒」・「大寒」と二つの二十四節気の項目がありますが、「寒の入り・小寒」に入る前から雪が降って閉口しました。立春まではまだ三週間以上もあります。いったいどんな気候になるのでしょうか？とても心配です。先日、ある総代さんと話している時にこの欄に私の子どもたちのことを書いて欲しくない人がいると伺いました。ここは私の思いのままを率直に書くことにしています。当然、身近なことを話題にするのが多くなると思いますが、そこを踏まえてお心広く家族のことを書いてもお許しください。

(住職 松井卓郎)

ご門主年頭の辞

降雪の年の始めでした。元旦午前五時五十分、いつもどおり梵鐘を撞いた時は雪は降っていないかったのですが、午前八時過ぎにはあたり一面真っ白の雪景色。おかげでこたつと仲良くしたお正月になりました。

昨年六月に本山の法統が大谷光真さまから大谷光淳さまに継承されました。

第二十五代ご門主さまのご教導を賜りながら、あらたにお念仏相続、ご法義繁盛の歩みを進めたいと思っております。

「大乘」誌(本願寺出版社発行)一月号冒頭に光淳ご門主の「年頭の辞」が掲載されていきましたので転載いたします。ご一読いただき、念仏者としてあらためて大切に一日一日を過ごす思いをお持ちいただきたいと思います。

年頭の辞

門主 大谷光淳



新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。昨年、六月に法統を継承し、本願寺住職・浄土真宗本願寺派門主となりました。急速な社会状況の変化が激しい現代社会において、浄土真宗のみ教えがより多くの方にとって生きる依りどころとなるよう、伝えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年は皆さまにとりましてどのような一年でしたでしょうか。悲しいこと・つらいこと、あるいは、うれしいこと・楽しいことなどを経験された方も多くありましよう。また、そのようなことのない一年を過ごしたという方もおられるかもしれません。

私たちの人生は、思い通りにいかないことがたくさん起こります。そして、自分の力だけでは解決できないこともあります。そのような時、私たちは、他人のせいにしたり、諦めたりしてしまいます。しかし、阿彌陀さまのはたらきに出会い、真実の教えに基づいてわが身を振り返るとき、あらゆるいのちの繋がりの中で生かされている私に気付かされます。浄土真宗のみ教えを聞き、「南無阿彌陀仏」とお念仏申す人生は、さまざまなお縁を大切に、限られた命を精いっぱい生きる人生であります。本年も、念仏者として、一日一日を大切に過ごしてまいりましょう。

法語の世界

〈原文〉

蓮如上人仰せられ候ふ。方便をわろしといふことはあるまじきなり。方便をもつて真実をあらはす廃立の義よくよくしるべし。弥陀・釈迦・善知識の善巧方便によりて、真実の信をばうることなるよし仰せられ候ふ云々。

(蓮如上人御一代記聞書 百七十六)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、「方便を悪いということではあつてはならない。方便によって真実が顕され、真実が明らかになれば方便は廃されるのである。方便は真実に導く手だてであることを十分に心得なければならぬ。阿彌陀如来・釈迦・よき師の巧みな手だてによって、わたしたちは真実の信心を得させていたのだのである」と仰せになりました。

1月の二十四節気と七十二候

(は二十四節気・は七十二候)

小寒(しょうかん・1月6日)
「寒の入り」といわれ、これから更に寒さが厳しくなる頃。

芹乃栄(せりすなわちさかう・初候・1月5日~9日頃)
芹が生え始める頃。
水泉動(しみずあたたかをふくむ・次候・1月10日~14日頃)
地中で凍った泉の水が溶け、動き始める頃。
雉始雉(きじはじめてなく・末候・1月15日~19日頃)
雉が鳴き始める頃。

大寒(だいかん・1月20日)
一年で一番寒さが厳しくなる頃。

款冬華(ふきのはなさく・初候・1月20日~24日頃)
凍っていた地面に落の花が咲き始める頃。
水沢腹堅(さわみずこおりつめる・次候・1月25日~29日頃)
沢の水が氷となり、厚く張りつめる頃。
鶏始乳(にわとりはじめてとやにつく・末候・1月30日~2月3日頃)
鶏が春の気を感じ、たまごを産み始める頃。

新年あけましておめでとうございます

旧年中は

金光寺の護持につきまして

大変お世話になりました

本年が皆様にとりまして

一層の念仏相続の年でありますよう

お念じいたします

本年もどうぞよろしく

お願い申し上げます

二〇一五年一月

金光寺役員・門徒総代一同

金光寺寺内一同